



第9回  
子ども市議会



平成23年12月27日  
開会





別府市議会議長  
松川 峰 生

## 子ども市議会を終えて

第9回「べっぷ子ども市議会」の開催に当たりまして、ご協力をいただきました各小中学校の先生方、子ども会育成会連合会の皆さま、PTA 連合会の皆さま、そして保護者の皆さまに心より感謝申し上げます。

子ども議員の皆さんは、各学校の子どもたちの代表として、みんなの意見を良くまとめ、勉強してきたことに感心いたしました。別府を想う気持ちが質問や提言を通して、強く伝わってきました。

私たち大人も、純真な子どもたちの視線から見た別府の問題点や希望あふれるまちづくりを真摯に受け止め、取り組まなければならないと心新たにしたところでもあります。

今後とも、一人でも多くの子どもたちが別府というまちに興味を持ち、まちづくりを考え、行動するように皆さまのなお一層のご協力をお願いいたします。



別 府 市 長  
浜 田 博

## 将来の別府を担う 子ども市議会

第9回を迎えました、小学生と中学生の議員による「べっぷ子ども市議会」は、次世代を担う子どもたちの別府に対する鋭い観察力により、多くの成果とともに、大変素晴らしい子ども市議会となりました。

別府が持つ財産を再認識し、人と人との結びつき「絆」を大切にすることを提唱した「繋がりを大切に作る町 別府」は市民全員で取り組まなければならない大切なものであると考えております。

私たちは将来につながる夢と希望にあふれた「住んでよし、訪れてよしのONSENツーリズム」によるまちづくりを一層推進することにより、次世代の子どもたちのための笑顔あふれる、愛されるまちづくりを進めていかなければならないと改めて認識いたしました。

第9回「べっぷ子ども市議会」の開催にご尽力いただきました先生方、保護者の方々、関係者の皆様にご心から感謝を申し上げますとともに、「べっぷ子ども市議会」のますますの発展をご期待申し上げます。

## 議長



大野 康晴 議員  
(東山中2年)

## 副議長



有田 理紗 議員  
(山の手中2年)

## 一般質問



山平 りか 議員  
(石垣小6年)



土井 和也 議員  
(上人小6年)



堀口 未来 議員  
(亀川小6年)



野田 亜美 議員  
(南小6年)



加藤 喜一朗 議員  
(朝日小6年)



首藤 進吾 議員  
(南立石小6年)



興梠 亜実 議員  
(大平山小6年)



大野 真生 議員  
(東山小6年)



廣岡 有紗 議員  
(西小6年)





中島 光樹 議員  
(鶴見小 6年)



加藤 美月 議員  
(緑丘小 6年)



工藤 みのり 議員  
(別府中央小 6年)



早川 季成 議員  
(境川小 6年)



北村 俊輔 議員  
(青山小 6年)



花澤 絢介 議員  
(春木川小 6年)

## 提 言

## 子ども宣言



増田 尚輝 議員  
(鶴見台中 2年)



秦 将也 議員  
(朝日中 2年)



櫻木 美由紀 議員  
(北部中 2年)

## 謝 辞



鳥居 瞳綺 議員  
(中部中 2年)



山村 莉歩 議員  
(青山中 1年)



安東 杏佳 議員  
(浜脇中 2年)

第9回「べっぷ子ども市議会」会議録 目次

・会期	1
・会期日程表	1
・子ども議員提出議案議決結果	1
・一般質問者一覧表	1
・提言者一覧表	3
・出席議員	5
・欠席議員	6
・説明のための出席者	6
・主催者等出席者	6
・議会事務局出席者	7
・議事日程（第1号）	7
・本日の会議に付した事件	7

[ 開 会 式 ] 目次

・開 会	9
・主催者紹介	9
・議長あいさつ	9
・閉 会	10
・子ども議長、子ども副議長紹介	10
・出席議員数の報告	11

○第1号(12月27日・火曜日)

・開 会	-----	11
・議席の指定	-----	11
・会議録署名議員の指名	-----	12
・会期の決定	-----	12
・一般質問	-----	12
質問者・山 平 り か 議員	-----	12
答弁者・永 井 正 之 生活環境部長	-----	13
浜 田 博 市長	-----	13
質問者・土 井 和 也 議員	-----	14
答弁者・大 野 光 章 企画部長	-----	15
浜 田 博 市長	-----	15
質問者・堀 口 未 来 議員	-----	16
答弁者・寺 岡 悌 二 教育長	-----	17
浜 田 博 市長	-----	17
質問者・野 田 亜 美 議員	-----	18
答弁者・糸 永 好 弘 建設部長	-----	19
浜 田 博 市長	-----	19
質問者・加 藤 喜一朗 議員	-----	20
答弁者・藤 内 宣 幸 福祉保健部長	-----	20
浜 田 博 市長	-----	20
質問者・首 藤 進 吾 議員	-----	21
答弁者・糸 永 好 弘 建設部長	-----	22
浜 田 博 市長	-----	23

質問者・興 梶 亜 実 議員	-----	23
答弁者・寺 岡 悌 二 教育長	-----	24
浜 田 博 市長	-----	24
(休憩・再開)	-----	25
質問者・大 野 真 生 議員	-----	25
答弁者・糸 永 好 弘 建設部長	-----	26
浜 田 博 市長	-----	26
質問者・廣 岡 有 紗 議員	-----	27
答弁者・永 井 正 之 生活環境部長	-----	28
浜 田 博 市長	-----	28
質問者・中 島 光 樹 議員	-----	29
答弁者・大 野 光 章 企画部長	-----	30
浜 田 博 市長	-----	30
質問者・加 藤 美 月 議員	-----	31
答弁者・藤 内 宣 幸 福祉保健部長	-----	31
浜 田 博 市長	-----	32
質問者・工 藤 み の り 議員	-----	33
答弁者・寺 岡 悌 二 教育長	-----	33
浜 田 博 市長	-----	34

	質問者・早川季成議員	-----	35
	答弁者・亀井京子	ONSENツアーズム部長	--- 35
	浜田博	市長	----- 36
	質問者・北村俊輔	議員	----- 37
	答弁者・糸永好弘	建設部長	----- 37
	浜田博	市長	----- 38
	質問者・花澤絢介	議員	----- 39
	答弁者・永井正之	生活環境部長	----- 39
	浜田博	市長	----- 40
	(休憩・再開)	-----	41
・提言の発表	提言者・増田尚輝	議員	----- 41
	答弁者・浜田博	市長	----- 41
	提言者・秦将也	議員	----- 44
	答弁者・浜田博	市長	----- 44
	提言者・鳥居瞳綺	議員	----- 45
	答弁者・浜田博	市長	----- 46
	提言者・山村莉歩	議員	----- 46
	答弁者・浜田博	市長	----- 47



- ・ 議員提出議案第 1 号子ども宣言について、上程----- 48
- ・ 提案理由説明-----櫻 木 美由紀 議員----- 48
- ・ 表 決----- 49
- ・ 閉 会----- 50

[ 閉 会 式 ] 目 次

- ・ 開 会----- 51
- ・ 市長あいさつ-----浜 田 博 市長----- 51
- ・ 記念品の贈呈-----寺 岡 悌 二 教育長----- 52
- ・ 子ども議員代表者謝辞-----安 東 杏 佳 議員----- 52
- ・ 閉 会----- 53

## 第9回「べっぷ子ども市議会」会議録

---

○会 期 平成23年12月27日(1日)

---

### ○会期日程表

平成23年12月27日(火) 本会議 議席の指定、会議録署名議員の指名、会期の決定、一般質問、提言、子ども議員提出議案第1号「子ども宣言について」

---

### ○子ども議員提出議案議決結果

子ども議員提出議案第1号「子ども宣言について」

平成23年12月27日 原案可決

---

### ○一般質問者一覧表

質問 順位	質 問 議 員	質 問 項 目
1	10番議員 石垣小学校 山 平 り か	ごみ処理の現状と将来的な見通し
2	8番議員 上人小学校 土 井 和 也	別府市のエネルギー問題の現状とこれから
3	7番議員 亀川小学校 堀 口 未 来	学校にエレベーターを設置する計画はありますか
4	2番議員 南小学校 野 田 亜 美	安心して通行できる道路について

5	9番議員 朝日小学校 加藤 喜一朗	病院の数、受付時間等
6	5番議員 南立石小学校 首藤 進吾	緑を残していくための取組について
7	13番議員 大平山小学校 興 栢 亜 実	別府には海も山もあり自然豊かである 山の自然を体験するのに「おじか」があるが、海の方の体験活動ができるような施設をつくって子どもが利用することはできないだろうか
8	14番議員 東山小学校 大野 真生	暴走車の来ない東山にしてほしい
9	3番議員 西小学校 廣岡 有紗	あやまってごみ出しされたものに動物がいたずらし、まちが汚れてしまう
10	6番議員 鶴見小学校 中島 光樹	多くの人を訪れるがバリアフリーの取組は進んでいるのか
11	12番議員 緑丘小学校 加藤 美月	ボランティア団体の種類と活動内容、小学生も参加できるもの
12	15番議員 別府中央小学校 工藤 みのり	別府市立図書館をもっと利用しやすくするために
13	1番議員 境川小学校 早川 季成	別府市の観光を発展させるために

14	4番議員 青山小学校 北村俊輔	別府公園の活用について
15	11番議員 春木川小学校 花澤絢介	春木川清掃に取り組んでいる 川や海を きれいにするためにどんな取組をして いくか

○提言者一覧表

提言 順位	提言議員	提言内容
1	19番議員 鶴見台中学校 増田尚輝	温泉館を設置してほしい
2	18番議員 朝日中学校 秦将也	地熱発電の利用について
3	17番議員 中部中学校 鳥居瞳綺	みんなで助け合い住みやすいまちにする ために
4	16番議員 青山中学校 山村莉歩	別府市の発展も願うが豊かな自然も残し てほしい



## 第9回「べっぷ子ども市議会」会議録（第1号）

平成23年12月27日

○出席議員（23名）

1番議員	境川小学校	早川季成君
2番議員	南小学校	野田亜美さん
3番議員	西小学校	廣岡有紗さん
4番議員	青山小学校	北村俊輔君
5番議員	南立石小学校	首藤進吾君
6番議員	鶴見小学校	中島光樹君
7番議員	亀川小学校	堀口未来さん
8番議員	上人小学校	土井和也君
9番議員	朝日小学校	加藤喜一朗君
10番議員	石垣小学校	山平りかさん
11番議員	春木川小学校	花澤絢介君
12番議員	緑丘小学校	加藤美月さん
13番議員	大平山小学校	興栢亜実さん
14番議員	東山小学校	大野真生さん
15番議員	別府中央小学校	工藤みのりさん
16番議員	青山中学校	山村莉歩さん
17番議員	中部中学校	鳥居瞳綺さん
18番議員	朝日中学校	秦将也君
19番議員	鶴見台中学校	増田尚輝君
20番議員	浜脇中学校	安東杏佳さん
21番議員	北部中学校	櫻木美由紀さん
22番議員	山の手中学校	有田理紗さん
23番議員	東山中学校	大野康晴君



○欠席議員（なし）

○説明のための出席者

市 長	浜 田 博 君	副 市 長	友 永 哲 男 君
副 市 長	阿 南 俊 晴 君	教 育 長	寺 岡 悌 二 君
水 道 局 長	亀 山 勇 君	総 務 部 長	釜 堀 秀 樹 君
企 画 部 長	大 野 光 章 君	ONSENツアーズ部長	亀 井 京 子 君
建 設 部 長	糸 永 好 弘 君	生 活 環 境 部 長	永 井 正 之 君
福 祉 保 健 部 長	藤 内 宣 幸 君	消 防 長	渡 邊 正 信 君
学 校 教 育 課 長	高 橋 祐 二 君		

○主催者等出席者

別 府 市 議 会 議 長	松 川 峰 生 君
別 府 市 議 会 子 ども 会 を 支 える 議 員 連 盟 会 長	首 藤 正 君
別 府 市 子 ども 会 育 成 会 連 合 会 会 長	池 辺 栄 治 君
別 府 市 P T A 連 合 会 会 長	後 藤 智 君
別 府 市 議 会 副 議 長	松 川 章 三 君
別 府 市 議 会 子 ども 会 を 支 える 議 員 連 盟 副 会 長	永 井 正 君
別 府 市 議 会 子 ども 会 を 支 える 議 員 連 盟 事 務 局 長	猿 渡 久 子 君
別 府 市 議 会 子 ども 会 を 支 える 議 員 連 盟 事 務 局 理 事	市 原 隆 生 君

○議会事務局出席者

局	長	加藤陽三	参	事	宮森久住
次	長	小野大介	次	長	浜崎憲幸
主査	補	溝部進一	主	任	中村賢一郎
主	任	甲斐俊平	主	任	波多野博
主	事	松川昌代	主	事	山本佳代子

○議事日程（第1号）

平成23年12月27日（火曜日） 午前9時10分開議

第1 議席の指定

第2 会議録署名議員の指名

第3 会期の決定

第4 一般質問

第5 提言

第6 子ども議員提出議案第1号「子ども宣言について」

○本日の会議に付した事件

日程第1～日程第6（議事日程に同じ）



○市議会事務局長（加藤陽三君） おはようございます。

開会式に先立ちまして、子ども議員皆さんの記録用写真を撮影しますので、子ども議員の皆さん方は、議長席の方を見てください。

傍聴席の皆さま並びに主催者の皆さま方は、恐れ入りますが、今、しばらくお待ちくださいますようお願いいたします。

[ 写 真 撮 影 ]

ご協力ありがとうございました。

それでは、ただ今から、第9回「べっぷ子ども市議会」開会式をとり行います。

はじめに、主催者並びに関係者の皆さまをご紹介させていただきます。

浜田 博 別府市長です。

松川峰生 別府市議会議長です。

首藤 正 別府市議会子ども会を支える議員連盟会長です。

池辺栄治 別府市子ども会育成会連合会会長です。

後藤 智 別府市PTA連合会会長です。

松川章三 別府市議会副議長です。

別府市議会子ども会を支える議員連盟副会長の永井 正義議員です。

同じく事務局長の猿渡久子議員です。

同じく理事の市原隆生議員です。

以上を代表し、松川峰生 別府市議会議長より、皆さんにごあいさついたします。

○市議会議長（松川峰生君） 皆さん、おはようございます。

本日、いよいよ「べっぷ子ども市議会」が始まります。

この日のために皆さんは、別府市の子どもたちの代表として、みんなの意見を集約して、勉強をしてきたことと思います。

緊張をしているとは思いますが、元気に堂々と皆さんの別府を思う純粋な気持ちを一般質問や提言で、発表していただけたら良いと思います。

本日、私も皆さんの質問や提言を非常に楽しみにしていますし、私たちが行っている本会議と同じように準備もしています。

そして、浜田市長や副市長、教育長、部長も皆さんの質問や提言に真剣に答えてくれると思います。

ぜひ、本日のこの経験を大事にして、これからの学校生活や地域活動に活かしていただければと思っています。

終わりにりましたが、本日の子ども市議会の開催に当たり、大変ご尽力いただきました先生方、PTA、並びに市子連の皆様方に対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

子ども議員の皆さん、本日はしっかりと肩の力を抜いて、自分の思う気持ちをぜひ市長さんたちにぶつけていただければと思います。最後まで元気よく、がんばってください。楽しみにいたしております。

○市議会事務局長（加藤陽三君） ありがとうございます。

以上をもちまして、開会式を終了いたします。

続きまして、子ども市議会の議長及び副議長の選出については、あらかじめ決定されておりますので、ご紹介させていただきます。

議長は、東山中学校の 大野康晴君です。

大野君は、議長席までお越しくください。

続きまして、副議長は山の手中学校の 有田理紗さんです。

有田さんは副議長席までお越しくください。

それでは、議長と副議長が席に着かれましたので、大野議長よろしくお願ひします。

---

午前9時10分 開会

○議長（大野康晴君） おはようございます。

先ほど、ご紹介をいただきました、議長の東山中学校 大野康晴と副議長の山の手中学校 有田理紗さんです。

私たちのまち別府が希望に満ちた、住みよいまちになるように、今日の子ども市議会をがんばりたいと思いますので、子ども議員皆さんのご協力をよろしくお願ひいたします。

また、本日は、市長さん、市議会議長さんをはじめ、多くの関係者の皆さんに、ご出席をいただきありがとうございました。

それでは、ただいまより、子ども市議会を開会いたしたいと思いますので、出席議員数の報告をお願いします。

○市議会事務局（松川昌代さん） 人員のご報告を申し上げます。議員定数23名、現在員23名であります。

○議長（大野康晴君） 第9回「べっぷ子ども市議会」は、成立いたしました。

これより会議を開きます。

本日の議事は、「議事日程第1号」により行います。

日程第1により、議席の指定を行います。

議席は、議長において指定いたします。

議席番号と氏名を職員の方に読み上げていただきます。

○市議会事務局（松川昌代さん） それでは、議席番号と氏名を読み上げますので、呼ばれた方は「はい」と返事をし、その場でご起立を願います。

1番議員	境川小学校	早川季成君
2番議員	南小学校	野田亜美さん
3番議員	西小学校	廣岡有紗さん
4番議員	青山小学校	北村俊輔君
5番議員	南立石小学校	首藤進吾君
6番議員	鶴見小学校	中島光樹君
7番議員	亀川小学校	堀口未来さん
8番議員	上人小学校	土井和也君
9番議員	朝日小学校	加藤喜一朗君
10番議員	石垣小学校	山平りかさん
11番議員	春木川小学校	花澤絢介君
12番議員	緑丘小学校	加藤美月さん
13番議員	大平山小学校	興柊亜実さん
14番議員	東山小学校	大野真生さん
15番議員	別府中央小学校	工藤みのりさん



16番議員 青山中学校 山村 莉歩 さん  
17番議員 中部中学校 鳥居 瞳 綺 さん  
18番議員 朝日中学校 秦 将也 君  
19番議員 鶴見台中学校 増田 尚輝 君  
20番議員 浜脇中学校 安東 杏佳 さん  
21番議員 北部中学校 櫻木 美由紀 さん  
22番議員 山の手中学校 有田 理紗 さん  
23番議員 東山中学校 大野 康晴 君

○議長（大野康晴君） ただいま、読み上げていただいたとおり、議席を指定いたします。

次に、日程第2により、会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員は、  
7番 堀口 未来 さん  
8番 土井 和也 君

以上、2名の方々にお願いをいたします。

次に、日程第3により、会期の決定を議題といたします。

お諮り<sup>はか</sup>いたします。

子ども市議会の会期は、本日1日といたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

○議長（大野康晴君） ご異議なしと認めます。

よって、子ども市議会の会期は、本日1日と決定いたしました。

次に、日程第4により、一般質問を行います。一般質問者は15名です。質問順位により、一般質問を行います。

最初に、10番議員、石垣小学校の山平りかさんの一般質問をお願いいたします。

[10番議員 山平りかさん、登壇]

○10番議員（山平りかさん） 私は、自然環境について質問をします。

現在、別府市では「プラスチック製の容器」以外の「プラスチック製の製品」は燃やさないごみとして出しています。そこで出されたものは、粉々にし

て燃やし、残りは、埋め立てて処理すると市役所の方から聞きました。でも、このままでは、埋める場所が無くなり、また、有害なガスも出て、環境に悪いと思います。

先日、私は大分市で行われた生活文化展に行きました。この文化展で、私は初めて、プラスチックの熱分解処理というものを知りました。熱分解処理によってプラスチックからは、三つの再資源が出ます。一つ目は、炭化水素油です。炭化水素油は、化学工場で化学原料として利用されます。二つ目は、コークスです。コークスは、鉄鉱石を鋼にする際の材料として利用されます。三つ目は、コークス炉ガスです。コークス炉ガスは、発電所などで利用されます。

そこで質問です。別府市では、環境のため、また資源活用のために、プラスチックの熱分解処理というものを行っているのですか。もし今、行っていないければ、そのような計画はないのでしょうか。教えてください。

○議長（大野康晴君） 生活環境部長。

○生活環境部長（永井正之君） お答えいたします。

山平議員が言われたプラスチックの熱分解処理は有効なりサイクル方式の一つであるケミカルリサイクル方式です。その他のリサイクル方式には、原料に戻して新たな製品をつくるマテリアルリサイクル方式や焼却で発生した熱を回収して利用するサーマルリサイクル方式があります。

現在、別府市では、全市的なプラスチックのリサイクルは行っておりませんが、ボトルキャップを回収してワクチンに変える事業を推進しており、ボトルキャップはマテリアルリサイクル方式により、新たなプラスチック製品に生まれ変わっております。

また、平成26年度の稼働を目指して、新しいごみ処理施設を建設しておりますが、この施設ではプラスチックなどを焼却して発電するサーマルリサイクルを行う計画であります。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 10番、山平りか議員の質問にお答えいたします。

山平議員はリサイクルについて、しっかり勉強していますね。これだけ多くの知識を得ていることに対して、本当に感動いたしました。非常にうれしく思

います。

資源の乏しい日本では、ごみをリサイクルするということ、そして資源の循環を図る社会を作っていくということも非常に大切なことだと思っております。

また、リサイクルは、ごみになってからのことですが、ごみを作らないようにすることも重要です。ごみを減量する、減らすということ、例えば、要らない物は購入しない、食べ物は残さず食べることなど、ほんの少しの心がけで、ごみの減量につながるということを、ぜひご理解をいただきたいと思っております。

山平議員におかれましては、どうすれば「ごみのないきれいな美しいまち」ができるだろうか、どうすれば「環境にやさしいまち」ができるのかなど、いろんなことを勉強していただき、石垣小学校のお友達にもそういうことをぜひ伝えていっていただきたいと思っております。

これからも、美しい別府を思う気持ちを大切にしてください。

貴重な質問、本当にありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 10番。

○10番議員（山平りかさん） ありがとうございます。別府市でも早くプラスチックの熱分解処理を行ってください。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 次に、8番議員、上人小学校の土井和也君の一般質問をお願いいたします。

[8番議員 土井和也君、登壇]

○8番議員（土井和也君） 今年の3月に起きた東日本大震災、そして福島原発事故をきっかけに、安全面、環境面の視点から、太陽光、風力、水力、地熱などの自然エネルギーに注目が集まっています。

大分県は、国内でもそれらの普及率が高いと聞きましたが、別府市では、現段階でどのような種類の自然エネルギーが発電に活用されているのだろう。また、どの程度普及しているのだろうと考えるようになりました。

これからのエネルギー開発は、安全性や環境面を重視した方向で進めていく必要があると思います。特に、別府市は温泉地なので、地熱を利用したエネルギー開発が大変魅力的だと思います。そこで質問です。別府市では、エネルギー開発に関して、具体的な取り組みの計画や、方向性などが決まっているので

しょうか。教えてください。

○議長（大野康晴君） 企画部長。

○企画部長（大野光章君） お答えいたします。

土井議員ご指摘のとおり、大分県は再生可能エネルギー供給量と自給率が全国1位です。また、別府市の再生可能エネルギー自給率は、県内で6位となっています。

別府市内では、自治体や民間の企業などで、太陽光発電、地熱発電、小水力発電、生ゴミやおがくずを利用するバイオマス発電などが行われています。

例えば、太陽光発電については、べっぷアリーナ、ほっぺパーク、南小学校、亀川小学校などに設置しています。

また、民間企業の方では、施設の電力源として地熱発電を導入しているところもあります。

今後もクリーンエネルギーについては、積極的に導入していきたいと考えています。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 8番、土井和也議員の質問にお答えいたします。

土井議員のご指摘にもありましたが、今年3月に起きた東日本大震災、そして福島原発事故から再生可能エネルギー導入の機運が高まってまいりました。

その中でも、土井議員が注目された地熱エネルギーは、別府市において大きな可能性をもった再生可能エネルギーだと私も考えています。地熱発電でも、高い圧力や地下の高熱が必要となってくるわけで、また温泉の排熱を利用した「温度差発電」などが大学や民間企業などで研究、開発が進んでおりまして、全国的には既に実用化もされているところもあるわけでございます。

別府市をはじめ温泉のある都市が全国で85市あります。その温泉所在都市しよざいの会長を今、私がしておりまして、その会の中でも温度差発電ができないのかということ、温泉地の皆さん、市長さんと話し合いを進めているところでございます。

これからは、それらのエネルギーを有効利用できるように、その研究の発展に期待をしながら、価格面など導入が可能となるように、国や県としっかり話

し合いをしていきたいと思っております。

土井議員の質問にありましたように、これからのエネルギーは安全や環境面のことをしっかり考えて重視した方向で進めていく必要がある。こういう言葉、ご意見を聞いて、地域や周りの人たちを思う温かい気持ちが本当に伝わってまいりました。どうぞ、その気持ちを大切にしてください。

貴重な質問ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 8番。

○8番議員（土井和也君） ありがとうございました。研究を進めて、自然エネルギーをこれからも取り入れられるように、がんばってください。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 次に、7番議員、亀川小学校の堀口未来さんの一般質問をお願いいたします。

[7番議員 堀口未来さん、登壇]

○7番議員（堀口未来さん） 私たちの住んでいる亀川地区には、「太陽の家」があり、車イスの人や体の不自由な人がたくさん住んでいます。私はそんな人たちを見て、「何か困ることはないのかな」「私たちに何かお手伝いできることはないのかな」とよく思います。

この前、こんなことがありました。学校公開の時に、足の不自由な人が階段を上がるのに、とても大変そうに上がっていたのです。

駅やスーパーなど、人が多く集まる場所にはエレベーターがよく設置しています。しかし、亀川小学校には、エレベーターがありません。だから、車イスの人がせっかく学校に来てくれても、だれかに<sup>かつ</sup>担いでもらわないと、上の階には上がりません。

私は学校で、「障がいのある人もない人も、みんなが幸せにらせるような世界が、本当に素晴らしい世界だ」ということを学びました。

だから、体の不自由な人にも、たくさん学校に来てもらってお話をしてみたいし、そこからいろんなことを学んでいきたいと思っています。

そこで、質問です。多くの人が集まる学校にエレベーターを設置する計画はありますか。教えてください。

○議長（大野康晴君） 教育長。

○教育長（寺岡悌二君） お答えいたします。

亀川小学校の近くには、障がいのある方々が働き、地域の中で自立した生活を営む「太陽の家」があります。堀口議員がその亀川地区で生活をしていく中で常日頃から、障がいのある方々のことを真剣に考えていただいていることに深く感銘かんめいいたしました。

学校公開では、多くの地域の方々が学校を訪れます。その中で堀口議員がご覧になった足のご不自由な方には階段の上り下りについてご迷惑をおかけし、大変申し訳なく思っております。他の公共施設のようにエレベーターが学校にも設置されていればいいのですが、ほとんどの学校にはエレベーターが設置されていないのが現状です。障がいのある方もどなたでも学校に来て、皆さんの学習の様子を見ていただく「環境づくり」は大切なことだと思います。そして堀口議員をはじめ、たくさんの小学生と障がいのある方々と一緒にいろいろな話をし、また、お互いが学びあう学校づくりもとても大事なことだと感じています。

エレベーターの設置についてですが、学校の構造上の問題で難しい面がありますが、堀口議員のおっしゃるように、障がいのある皆さんに対する気持ちを大切にしなければならないと考えていますので、そのような環境づくりに教育委員会といたしましても、しっかりとこれから考えていきたいと思っております。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 7番、堀口未来議員の質問にお答えいたします。

堀口議員が、障がいのある方が多く住んでいる亀川地区で、常日頃から障がいのある方へ何かできないかと思っている気持ちは、とてもすばらしいと思いますし、本当に堀口議員は心の優しい人だと感じました。その気持ちはいつまでも持ち続けてほしいと思います。

堀口議員が学校で学んだ「障がいのある人もない人も、みんながしあわせにくらせるような世界が、本当にすばらしい世界だ」という言葉は、私もその通りだと思いますし、そのような世界をみんなで作っていかなければならないと



そういうふうに思います。

教育長も言いましたが、学校で障がいのある人もない人も一緒になって、いろいろな話をするということ、そして、そこからさまざまなことを学びあう環境、これは本当に皆さんのこれからの人生において、かけがえのない経験になるのではないかなと思いますし、そこから人を敬<sup>うやま</sup>う美しい心が生まれてくるとこのように確信をいたしています。

堀口議員の気持ちを大切にするためにも、エレベーターの問題も含めて、いろいろな方法を今後、考えていかなければならないと思っています。

堀口議員には、亀川を愛し、みんながなかよく、しあわせに暮らせる町にしたいと思う気持ちをいつまでも大切に持ち続けてほしいと思います。

貴重な質問ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 7番。

○7番議員（堀口未来さん） ありがとうございました。足の不自由な人たちのためにも、早く学校にエレベーターが設置されることを願っています。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 次に、2番議員、南小学校の野田亜美さんの一般質問をお願いいたします。

[2番議員 野田亜美さん、登壇]

○2番議員（野田亜美さん） 私は、まちづくりについて質問します。

私は、4年生の時に南小学校に転校してきましたのですが、道路の安全面が気になりました。南校区では、私たちの登下校の時に、交通指導員さんや地域の見守り隊の方たちが交差点などに立ち、私たちの安全を見守ってくださっています。しかし、お年寄りや子どもが多く通る場所でも、道幅が狭く、白線も引かれていない所があります。そのため、学校から帰って遊びに行く時に、左右に気をつけていても車にぶつかりそうになったことがあります。私は、歩道がない道でも、白線が引いてあるだけで安全性が高くなるのではないかと思います。

そこで質問です。南校区では、交通事故があった場所に赤い枠線を引いて、車が気をつけるようにしていると聞きましたが、その他に歩行者がより安全に通行できるような工夫や取り組みがあるのでしょうか。教えてください。

○議長（大野康晴君） 建設部長。

○建設部長（糸永好弘君） お答えいたします。

野田議員ご質問の交差点に引いている赤い枠線は、「高視認性区画線<sup>こうしにんせいかくせん</sup>」といいます。

この区画線の特徴は、カラーのエンジ色なので交差点を確認しやすく、夜間でも非常によく見えるので、道路標識<sup>ひょうしき</sup>の見落としや交差点の安全確認に効果があり交通事故の防止に役立っております。

別府市道を管理しています道路河川課では、平成21年度より子どもたちの集まる危険性が高い、チビッコ広場や児童館周辺などの交差点に設置を行っております。

また、歩道のない道路では、道路の端<sup>はし</sup>に白線を引き、その中をグリーンやオレンジのカラー舗装<sup>ほそう</sup>を行うことで歩道と車道の区分を分かりやすくし、安全で歩きやすい道路づくりを行っております。

しかし、未整備の箇所もまだ多くあり、引き続き野田議員ご提案の区画線設置などを積極的に進めていきたいと考えております。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 2番、野田亜美議員の質問にお答えいたします。

みんなが安心して通行できる道路についての質問ですが、お年寄りや子どもたちのことを本当に心配しているなど感銘<sup>かんめい</sup>を受けました。

その優しい思いをいつまでも大切にしてください。

野田議員の質問のとおり、市内には狭くて、歩行者にとって本当に危険な道路が数多くあります。随時<sup>ずいじ</sup>、計画的に整備をしておりますが、この問題は毎日道路を使う市民の皆さんにとって、本当に身近な問題だと思えます。

市民の皆さんが安心して歩ける道路づくりは、本市の重点課題であり、私が目指しております「安全で安心のまちづくり」の一つでもあります。

先に建設部長が答弁したように、もっともっとさらに歩行者にとって安全で歩きやすい道路づくりに努めてまいりたいと思っております。

貴重な質問ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 2番。

○2番議員（野田亜美さん） ありがとうございます。早く白線などが引かれていない所に、白線が引かれるように願っています。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 次に、9番議員、朝日小学校の加藤喜一郎君の一般質問をお願いいたします。

[9番議員 加藤喜一郎君、登壇]

○9番議員（加藤喜一郎君） 大分県は10万人あたりの病院数が都道府県ランキングで4位になっています。ここ別府市にも多くの病院があります。病院以外にも最近では「湯のまちけんこうパーク」など新しい保健施設も完成し、別府市はこれから医療・福祉の町としても発展していくのではないかと思います。しかし、別府市には大きい病院がいくつもあるのに、夜間小児科の受付時間は、10時30分までとなっています。僕は3歳の時、夜中に大きな病気になった経験があります。こうした経験は僕だけではないと思います。子どもは夜中こそ病気になりやすいと思います。そこで質問です。夜間小児科の診察時間を24時間にすることはできないでしょうか。もし、それが難しければ、少しでも診察時間を延長することはできないでしょうか。教えてください。

○議長（大野康晴君） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（藤内宣幸君） お答えいたします。

夜間子ども<sup>しんりょう</sup>診療は、夜間における子どもの急病に対する医療の確保として、保健センター内で実施しており、<sup>しんりょう</sup>診療時間は夜の7時から11時までとなっております。

保健センターの夜間子ども<sup>しんりょう</sup>診療にあたっている医師は、市内の小児科医が中心となり当番制により<sup>しんりょう</sup>診療を行っておりますが、昼間の通常<sup>しんりょう</sup>診療もごございますので、受付時間の延長や24時間体制にすることは、現在のところ難しいと思われま

す。夜間子ども<sup>しんりょう</sup>診療は、あくまで応急処置的なもののため、休日や夜間において、入院を必要とするような大きな病気やケガに対しましては、安心して受診できるよう市内二つの病院で受入体制を行っております。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 9番、加藤喜一郎議員の質問にお答えいたします。

別府市では、昨年12月に健康づくりの拠点施設として、別府市保健センター「湯のまちけんこうパーク」を開設いたしております。

その時間の問題が出ましたが、「誰もが健康で安心して暮らしていけるまち」を目指しているわけですが、加藤議員の質問を聞きながら、福祉や医療に対する思いが、本当に大変よく伝わってきました。

ご質問のとおり、確かに子どもの病気は、夜中にいつ起こるかわかりません。そして、夜中に病気になったら、お父さん・お母さんの心配を考えると本当に計り知れないものがあるわけでございます。

先ほど部長が答弁したように、大きな病気とか大きなケガが夜中に起こったときには、しっかりと「湯のまちけんこうパーク」の保健センターだけではなく、日曜日・祝日も含めて年末年始においても、急な病気になったとき、これはすべて市内の病院が当番で診療しんりょうにあたっただけ。二つの病院が登録されておりますので、安心してください。

けんこうパークは、あくまでも、ちょっとおなかが痛いとか、病気にかかったな、ケガをしたなというときに、11時までは夜間に診みてくれると、子ども診療しんりょうがね。だから、観光客のお客さんも安心して、家族連れで別府に観光ができるなど、こういう声を聞いています。

そういうことで、24時間・365日、誰もが安心できる体制づくりを今後もしっかり病院と協力して行っていきたいと考えております。

加藤議員の医療に対する貴重な質問、本当にありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 9番。

○9番議員（加藤喜一郎君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 次に、5番議員、南立石小学校の首藤進吾君の一般質問をお願いいたします。

[5番議員 首藤進吾君、登壇]

○5番議員（首藤進吾君） 僕は、自然環境について質問します。

僕の学校のとなりには南立石公園があります。ここでは、毎日多くの人が自然の中でウォーキングをしたりしてここちよい時間を過ごしています。しかし、僕が南立石公園で友達と遊んでいる時に注意して見てみると、カン、ビン、ペ

ットボトルなどのゴミを捨てる人を見かけます。また、木や草のかげには、タバコの吸いがらもよく見かけます。お母さんに聞いてみると、他にも山道の奥<sup>おく</sup>に、テレビ、冷蔵庫、タイヤなどの有料不燃物が捨てられてあったり、高速道路に入る前の道でレジ袋の中に入ったゴミを見かけたりしたことがあると言っていました。

こうした問題を解決するために僕は、公園にゴミ箱を設置したり、「ゴミはゴミ箱へ」と書いた看板<sup>かんばん</sup>を立てたり、いろいろな学校や会社などでボランティア活動でゴミ拾いをしたりしてはどうかと考えました。

そこで質問です。美しい町づくりのための市の取り組みについて教えてください。

○議長（大野康晴君） 建設部長。

○建設部長（糸永好弘君） お答えいたします。

公園内にゴミ箱を置けば、いろんな所にゴミを捨てないのではないかと言う首藤議員の考えは、よく理解できます。

公園を管理しております、公園緑地課も首藤議員と同じ考えで、以前、市内にある70カ所の公園にゴミ箱を置き、きれいな公園を目指していました。しかし、家庭の生ゴミを持ち込む人が多くなり、カラスやネコが公園内に生ゴミをまき散らして公園内が汚れ、不衛生になるといった事態が続きました。そこで、公園内のゴミ箱をすべて撤去<sup>てつきよ</sup>し、ゴミは各自が持って帰ることを市報でお知らせして、マナーアップの推進を行っているところでございます。

次に、注意看板<sup>かんばん</sup>を立てると良いのではとの件でございますが、現在、各公園に「ゴミは捨てない」「ゴミは持ち帰りましょう」などの注意看板<sup>かんばん</sup>を立て、お願いしているところでございます。

なお、首藤議員が住んでいます校区の前八幡<sup>はちまん</sup>児童公園や、小さな幼児公園5カ所では、自治会の方々に公園愛護会<sup>あいご</sup>という組織を作っていただき、公園の清掃等をしていただいております。

公園を利用する皆さんがゴミを出さない、捨てないというマナーアップの気持ちを持っていただけたら、すべての人が気持ちよく公園を利用することができると考えております。

首藤議員の公園をきれいにしたいという気持ちにこたえられるよう、今後とも公園の管理をしっかりしていきたいと思います。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 5番、首藤進吾議員の質問にお答えいたします。

私も公園はもちろんのことですが、大好きな別府市全体をゴミのないきれいな町にしたい思いは、首藤議員と全く同じ思いでございます。

別府市の市民憲章の中の一つに「美しい町をつくりましょう」とあります。市民憲章を<sup>じっせん</sup>実践する一つとして、公園内に今お話がありましたように、ゴミ箱は逆に置かないという方法で、「自分が出したゴミは自分で持ち帰ろう」ということを徹底したい。そのように今、方向を変えております。

別府市は観光都市ですので、ゴミが落ちていない美しい町で、お客様を温かく笑顔で迎えましょうというのが、私たちの運動でございます。今後もその方向で、一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

首藤議員のゴミのない公園や美しい町にしたい、という気持ちを今後もぜひ大切にしてほしいと思います。

貴重な質問ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 5番。

○5番議員（首藤進吾君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 次に、13番議員、大平山小学校の興柊亜実さんの一般質問をお願いします。

[13番議員 興柊亜実さん、登壇]

○13番議員（興柊亜実さん） 私は、自然環境について質問をします。

別府は海も山もあり、自然豊かなまちです。山には少年自然の家「おじか」があり、私たちの学校では、4年・5年で利用し、貴重な経験ができています。でも、もし、海に子供が利用できる宿泊施設があれば、4年が山、5年が海というように、山と海、二つのすばらしさを体験できるのではないかと思います。

今、海岸<sup>ぞ</sup>沿いには、なでしこ会館や別府市美術館、砂湯などがありますが、体験して学べるという海の施設はないと思います。つりをしたり、ボートやヨットに乗ったり、さらには、自分たちでとった魚や貝を使って、海でバーベキ



ューをしたりすることができたら、最高だと思います。

海もあり山もある別府ならではの夢のような計画かもしれませんが、想像するだけで、わくわくします。

そこで質問です。海での宿泊体験学習ができる施設をつくる計画はないのでしょうか。教えてください。

○議長（大野康晴君） 教育長。

○教育長（寺岡悌二君） お答えいたします。

子どもの頃に自然体験活動をすることは、とても大切なことであると考えています。自然体験活動を経験した子どもは、学力が高く思いやりもあるというデータもあります。

そこで、教育委員会では少年自然の家おじかを活用して、子どもたちに対し、山の自然体験活動等を行っていますが、興梠議員のご指摘のとおり、海での体験活動も、自然に親しみ、自然を知る上でとても貴重な体験になると思います。

別府市には、海での自然体験活動ができる公共施設はありませんが、亀川の関の江には砂浜があり、海水浴場となっていますし、美術館がある上人ヶ浜も自然の松林が残る貴重な自然海岸です。教育委員会では、各公民館の主催講座等で、海や川の自然観察等を行い、環境教育アドバイザーの方に、生物等について詳しく説明していただいたりしております。また、おじかでも志高湖、かぐらめこ神楽女湖、きょうこく由布川峡谷などで水に親しむ活動を行っていますし、志高湖ではボート体験もできます。来年度以降は、こういった水に親しむ活動を充実していきたいと考えています。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 13番、興梠亜実議員の質問にお答えいたします。

まず、興梠議員の海での自然体験活動をしたいという気持ち、私はとても良いことだと思いますし、大切にしてほしいと思います。

大分県には、多くの美しい海岸があり、海での体験活動ができる公共施設としては、大分県のかかち香々地少年自然の家、マリンカルチャーセンターなどがあります。別府市では、おじかというのが山の方にあるのですが、市民が海に親しんで、さまざまな活動ができるよう、国と県と共同してこれまで数多くの取り

組みを行ってきました。それには、上人ヶ浜公園、スパビーチ、北浜公園、ヨットハーバー、餅ヶ浜の里浜ビーチ、そして今年5月には観光港の多目的広場が完成いたしました。7月には旧オリアナ<sup>さんぼし</sup>棧橋を遊歩道として開放することができました。そこで、つりも楽しむことができます。

今ある別府のさまざまな施設や、海岸を十分に活用して、おおいに私は海での体験活動ができるのではないかな、ぜひそれで楽しんでいただきたいと思っています。

興梠議員におかれましては、これからも別府の自然や地域を思う気持ちを大切にして、別府の将来の姿を語れる人になってほしいと思います。

貴重な質問ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 13番。

○13番議員（興梠亜実さん） ありがとうございました。これで質問を終わります。

○議長（大野康晴君） 休憩いたします。

午前 9時50分 休憩

午前10時05分 再開

○副議長（有田理紗さん） 再開いたします。

休憩前に引き続き、一般質問を行います。

14番議員、東山小学校の大野真生さんの一般質問をお願いいたします。

[14番議員 大野真生さん、登壇]

○14番議員（大野真生さん） 「暴走車の来ない東山にしてほしい」

別府の市街地から東山に通じる一の宮線は道が狭くて、カーブが急です。しかし、その道をものすごいスピードで、走って追いこしていく車やバイクがあり、とても危険です。また、エンジンの音をわざと大きくしたり、たばこの吸いがらやごみなどを捨てたりする人たちも見られます。ごみの中には、ガスの残っているライターや割れたビンのかけらもあります。

東山幼稚園、小学校、中学校では、毎年クリーングリーン活動といって、道のわきのゴミ拾いをしています。しかし、年ごとにごみが増えていっています。

私は、東山に住んでいますが、休みの前の夜は特に暴走車の音がひどくて、とても迷惑<sup>めいわく</sup>です。

そこで質問です。暴走車の来ない静かで美しい東山にするために、市として何か対策はないでしょうか。教えてください。

○副議長（有田理紗さん） 建設部長。

○建設部長（糸永好弘君） お答えいたします。

大野議員ご指摘の道路は、別府一の宮線と言う名称で、道路の修繕しゅうぜんや改修など大分県が管理している道路でございます。

議員のご提案の東山地区での暴走車取りしまりについてでございますが、別府警察署で尋ねたところ、この暴走車は「ローリング族」と呼ばれており、深夜に堀田からセントレジャー城島高原付近で暴走行為を繰り返しているとのことでございます。このため、警察としても毎週土曜日の夜、スピード違反の取りしまりや、速度制限や駐停車禁止等、厳しく指導しているということございました。

また、暴走車の来ない道路にするために、どういった対策を行っているか大分県に問い合わせをしたところ、道路の中央部分に追い越しができないようにセンターポールを設置したり、道路に小さな溝を掘り、タイヤがスリップしているような感覚を生じさせ、ドライバーに注意うながを促すなどの対策を現在行っているとのことでありました。

今後とも、市といたしましては、別府警察署と大分県へ、さらなる暴走車対策についてお願いをしてみたいと思います。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 14番、大野真生議員の質問にお答えいたします。

大野議員のご質問の道路は、昔、九州横断道路、通称が「やまなみハイウェイ」と呼んでいたと思います。別府から熊本の阿蘇山まで通じる観光ルートで、昭和39年に開通したものでございます。

自然豊かな阿蘇くじゅう国立公園内を通る道路に、最近ではゴミの不法投棄ふほうとうきもたくさんあります。そして、今お話しの暴走行為をする人たちが多くいることは、非常に残念だと思っています。近鉄ロープウェイに集合して、志高湖入口から城島の方面に「ローリング族」と呼ばれていますが、本当に困ったなと思っています。そのたびに、東山の人から通報をいただいていますし、警察

もパトカーが何度も出動していただいております。毎週土曜日は、しっかりと点検もしていただいているようでございます。

これら心ないドライバーがいるわけですが、東山幼・小・中学校の皆さんが、日ごろから毎年行っておりますクリーングリーン活動は、自分の住んでいる東山地区を本当に心から愛しているんだなと思います。その気持ちをしっかり受けとめておりますので、これからも続けてほしいなと思っております。

このぜひ優しい気持ちをいつまでも持ち続けてください。

このことは、市民憲章に「美しい町をつくりましょう」とあるとおり、別府市民が目指しているところであると思っております。

最後に、警察や道路の管理をしている大分県に対して、暴走車対策をしっかりとやっていただくように、お願いをしていきたいと思っております。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 14番。

○14番議員（大野真生さん） ありがとうございます。暴走車が減ることを願っています。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） 次に、3番議員、西小学校の廣岡有紗さんの一般質問をお願いいたします。

[3番議員 廣岡有紗さん、登壇]

○3番議員（廣岡有紗さん） 私は、まちづくりについて質問をします。

私は、ふるさとであるこの別府市が、いつまでもきれいな町であってほしいと思っています。

私の住んでいる地域は、ごみの回収日が月曜日と木曜日ですが、祝日には、ごみの回収が行われません。木曜日は、祝日がありませんので、大丈夫なのですが、月曜日は、ハッピーマンデー法が定められて、休日になることが多く、ごみが回収されません。

その日に、まちがって出されたごみが、カラスや猫にあらされ、付近にごみが散らかっていたということがありました。

また、ごみ捨て場に出さずに、家にためておいたとしても、異臭がして、近所の人に迷惑がかかります。

そこで質問です。祝日にもごみの回収をするという計画はないでしょうか。また、ごみをあらされないような取り組みを何か考えておられますか。教えてください。

○副議長（有田理紗さん） 生活環境部長。

○生活環境部長（永井正之君） お答えいたします。

別府市の祝日におけるごみ収集の現状について、説明をさせていただきます。

廣岡議員のご指摘のとおり月曜日は、ハッピーマンデー法の関係上、祝日となることが多いため、その対策として、ハッピーマンデーが2週連続する場合はどちらかの祝日に収集を行っております。また、ごみの収集が1週間以上あかないようにするため、週の収集日が、先ほど月曜と木曜というふうにおっしゃいましたが、もうひとコースが火曜日と金曜日になります。この2日とも祝日の場合はどちらかの祝日に収集を行っております。そのほか、7月の第3月曜日の「海の日」には、夏場のごみ対策として収集を行っております。

すべての祝祭日にごみの収集を行うのは、大きな費用がかかりますので、現時点では難しい状況にあります。ご指摘のように、さまざまな角度から検討を重ねていきたいと思っております。

毎年各ご家庭にお配りしております「ごみと資源の分け方・出し方カレンダー」で収集日を確認していただき、ごみを出していただくようご協力をお願いいたします。

それから、カラスや猫等の動物対策につきましては、「別府市美しいまちづくり奨励事業補助金」として、自治会単位でカラス除けネットを購入いただいた場合には、補助金を交付するという取り組みを行っております。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 3番、廣岡有紗議員の質問にお答えいたします。

廣岡議員におかれましては、別府市のごみ問題について大変な関心を持って、目を向けていただいて本当にありがとうございます。

別府市は観光都市で、毎年たくさんのお客さんが来ていただいています。そのなかで、ごみ問題は私たちにとっても、大きな関心事でございます。

しかしながら、このごみ問題に関しましては、別府市の収集現場だけの取り

組みではどうしてもできないぐらい解決できない問題がたくさんあり、ごみを出される市民の皆さまのご協力が非常に重要となってきます。

市民のお一人お一人が、廣岡議員のような気持ちになっていただくと、ごみが減るのかなという思いがいたしますし、ごみの発生を減らすことが一番大事だと思います。例えば先ほども答弁しましたように、ごみの大部分は水を含んだ生ごみです。できるだけ食べ物は残さないようにきちんと食べること、<sup>ざんぱん</sup>残飯をふやさないことが必要と思います。そして、リサイクルの問題も出ました。再資源の利用もしっかり考えていかなければいけないし、ごみを適正に分別をする、分けることも大切なのです。その出されたごみを別府市の収集員の皆さんが集めて、きれいに掃除をして、美しい町を一生懸命つくろうとがんばっております。こういうふうに、収集して適正に処理ができるということ、この取り組みに市民と一緒に取り組んでいくことが、私は重要ではないかと思っております。

これからも、別府の町をきれいにしたいという気持ちを大切にしてください。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 3番。

○3番議員（廣岡有紗さん） ありがとうございます。少しでも住みよい町環境になるように願っています。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） 次に、6番議員、鶴見小学校の中島光樹君の一般質問をお願いいたします。

[6番議員 中島光樹君、登壇]

○6番議員（中島光樹君） 僕は、9月に足を骨折してしまいました。その時に、困ったのは、階段の段差です。足を動かすと痛いので階段を上がるのも一苦勞でした。そこで、身体が不自由な時など人に優しい設備がもっとあればいいなと思いました。

別府は、多くの方が訪れる観光地ですが、バリアフリーは進んでいるのだろうか、いろんな人が来て、快適にすごせる町になっているのだろうかと考えました。

僕が通っている鶴見小学校の近くには、堀田温泉と海地獄、山地獄などの地

獄があります。僕が毎日行く堀田温泉には、<sup>よくそう</sup>浴槽に入るところに手すりがあります。その手すりは、よくお年寄りの人や身体の不自由な人が使っています。

また、地獄のバリアフリーについて調べてみると、9カ所中4カ所に手すりつきトイレがありました。しかし、多くの観光客が来る所としては少ないと、僕は思いました。

そこで質問です。

多くの人を訪れる別府市では、エレベーターやスロープ、多目的トイレ、点字などのバリアフリーは進んでいるのでしょうか。教えてください。

○副議長（有田理紗さん） 企画部長。

○企画部長（大野光章君） お答えいたします。

中島議員ご指摘の件は、本市の目指す「住んでよし 訪れてよし アジアをむすぶ ONSEN都市」につながるものと考えております。

これまでの本市の主な取り組みとしましては、多くの市民や観光客が利用する「別府駅」でエスカレーターとエレベーターを、「亀川駅」ではエレベーターを大分県やJR九州と協力し設置しております。

また、多目的トイレにおきましては、計画的に公園や公共施設に設置を進めております。

このほかにも、車いすなどが利用しやすいように、歩道と車道の段差をなくす取り組みなども行っております。

今後とも、年齢や障がいのあるなしにかかわらず、多くの人利用しやすいように整備を進めてまいりたいと考えております。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 6番、中島光樹議員の質問にお答えいたします。

中島議員の別府市民、そして別府を訪れる方々を思う気持ちについては大変ありがたく思っております。

私も、同じ思いでございます。

世界の人口の約1割が、障がいのある方だと言われております。

先ほど、部長がお答えしましたように、「住んでよし 訪れてよしのまちづくり」を実践するとき、だれもが「安全・安心」に暮らせる「まちづくり」が大

事であると考えております。

現在、この理念をもとに「障がいのある人もない人も安心して安全に暮らせる」別府市条例の制定を、準備をしてがんばっております。

近い将来には、中島議員の思いにおこたえができるのではないかと考えております。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 6番。

○6番議員（中島光樹君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） 次に、12番議員、緑丘小学校の加藤美月さんの一般質問をお願いいたします。

[12番議員 加藤美月さん、登壇]

○12番議員（加藤美月さん） 今年の3月、東北地方で大震災が起きました。テレビで見た被災地は、今までに見たことのない悲惨な状況でした。しかし、そんな状況の中で、たくさんのボランティアの方々が全国から集まって、被災された人を助ける活動をしている姿を見ました。

被災地に直接行って、泥だらけになりながられきの撤去をする人たちや、食事のお世話をする人、被災地には行かなくても、支援物資などを集めたり送ったりする人、一生懸命に活動される方々を見て、「私も何か困っている人のお手伝いがしてみたい」「被災地の人だけでなく、別府市にもいろいろなことで不自由を感じて困っている人がいるのではないかと、思うようになりました。

そこで質問です。別府市で、小学生でもできるようなボランティアがあるでしょうか。もしあれば、その団体や、活動内容、連絡方法などを教えてください。お願いします。

○副議長（有田理紗さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（藤内宣幸君） お答えいたします。

まず初めに、小学生も参加できるボランティアでございますが、今回の東日本大震災関係では、大分県社会福祉協議会の大分県ボランティアセンターにて実施しております「ふくしまっ子応援プロジェクト」を実施するにあたりまし



て、そのための募金活動を行ったり、メッセージ書きをしていただいたりボランティア活動が行われているとのことでございます。

また、別府市社会福祉協議会などが実施しております、夏休みにボランティア体験月間といたしまして、施設等において福祉活動を体験することにより、自分たちが住む地域社会の福祉の課題や福祉の現状を理解していただき、ボランティア活動への積極的な参加を進める事業も行われております。

そのほか、別府市においては、いろいろな分野別に多数のボランティア団体が活動しております。これらのボランティアに関し詳しいことは、別府市社会福祉協議会に連絡して、尋ねていただきたいと思います。

そして、別府市社会福祉協議会へ連絡した場合は、どのようなボランティアをしたいのか尋ねられるかもしれませんが、希望するボランティアを伝えていただければ、たくさんの登録している団体の中から小学生が参加できるものを紹介するといった返答になると思っております。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 12番、加藤美月議員の質問にお答えいたします。

今回の東日本大震災での被害については、先ほどから本当にご心配をいただいて、多くのボランティアの方々がいろんなところで活躍している姿を見ました。その姿を見て自分もやりたいと思った、その気持ちは大変すばらしいと思います。

先ほど、担当部長からもお答えしましたが、「ふくしまっ子応援プロジェクト」、私も別府市社会福祉協議会の会長として、現在、募金活動はもちろんメッセージ書きのボランティア活動の参加を呼びかけているところでございます。加藤議員も自分の思いが同世代の人たちに伝わるように、がんばって活動に参加していただきたいと思います。

また、ボランティア活動を体験する事業もたくさんあります。別府市内でも多くのボランティアグループがそういった活動をしておりますので、これらにも積極的に参加して体験するということが大切ではないかと思っております。そして、別府市の現状をしっかりと理解をしていただき、今後もボランティア精神を持ち続けて、活動に励んでいただきたいと思います。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 12番。

○12番議員（加藤美月さん） ありがとうございます。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） 次に、15番議員、別府中央小学校の工藤みのりさんの一般質問をお願いいたします。

[15番議員 工藤みのりさん、登壇]

○15番議員（工藤みのりさん） 私たちの学校では、週2回、6年生が1年生に読み聞かせを行っています。私が当番だった時、市立図書館でエプロンシアターのキットを借り、3週間ほど練習して1年生に披露したところ、大変好評でした。こういう読み聞かせのキットがあるのはありがたいと思います。しかし、まだまだキットの数が少ない上、個人の貸し出し期間も短いです。もっと数がふえ、ペープサートやパネルシアターなど、いろいろな読み聞かせのキットがあると便利だと思いました。

また、書架スペースが狭いので、日本の昔話や世界の名作などの全集がほとんど書庫にしまわれていて、あらかじめ検索しない限り、手に取って見ることはできません。そこで質問です。読み聞かせのためのキットをふやす予定はないのでしょうか。また、子供たちがもっと本にふれる機会がふえるよう、蔵書スペースを拡大するなどの計画はないのでしょうか。教えてください。

○副議長（有田理紗さん） 教育長。

○教育長（寺岡悌二君） お答えいたします。

工藤議員にはいつも市立の図書館を利用いただき、本当にありがとうございます。多くの人の知識、知恵が取り込まれている本を読むことは、皆さんの成長にとって非常に重要なことだと思っております。質問を聞きながら1年生に「読み聞かせ」をするなかで下級生の子どもたちにも自分と同じように本好きになってもらいたいとの工藤議員の思いがよくあらわれていて、大変感心しております。

さて、ご質問の読み聞かせキットの件でございます。現在、市立の図書館にはパネルシアターが27、エプロンシアターが14ございます。また、紙芝居や大型絵本等もたくさんございます。ほかの図書館と比べまして特に少ないと

ということではございませんが、読み聞かせを行う上での貴重な道具ですので、これからも計画的にふやしてまいりたいと考えております。また、貸出期間等につきましても、その問題は十分<sup>はいりよ</sup>配慮してまいりたいと考えております。

それから、本を読むための蔵書のスペース確保の問題です。工藤議員も知っているかと思いますが、児童書だけでなく一般図書も手にとって見ていただくような十分なスペースがございませんのが現状です。多くの本に囲まれて、なおかつ、ゆったりしたスペース、雰囲気の中で書物に親しんでもらいたいとの強い気持ちがございますので、今後はスペースの確保につきまして、検討してまいりたいと考えております。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 15番、工藤みのり議員の質問にお答えいたします。

工藤議員は大変な読書家で、図書館を大変よく利用していただいているということをお聞きしています。本当にありがとうございます。質問の中にも多くの本を愛する工藤議員の気持ちが、本当によくあらわれておりました。

読み聞かせ用のキットの件につきましては、計画的にふやすとともに読み聞かせをしている皆さんやグループ、団体の皆さんに利用していただきやすいように、広報や貸出方法等を改善<sup>かいぜん</sup>するようにしてまいりたいと思っております。

もう一つの蔵書スペースの問題です。本を年々増やしておりますので、非常に狭くなって、読む場所も狭いということをお聞きしております。図書館はビルの2階部分を使っておりますが、何とか1階や3階の部分を図書館として使うことはできないか。また、中央小学校近くに分館をつくれまいかということをお願いして、教育委員会で検討をいただいておりますので、市民の皆さんが図書館をより利用できるように、教育委員会としっかり検討していきたいと思っております。

工藤議員には、引き続き本や図書館を愛していただくとともに、関心を持っていただきますようお願いをして、回答とさせていただきます。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 15番。

○15番議員（工藤みのりさん） ありがとうございます。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） 次に、1番議員、境川小学校の早川季成君の一般質問をお願いいたします。

[1番議員 早川季成君、登壇]

○1番議員（早川季成君） 僕は、観光についての質問をします。

別府は、温泉の湧出量ゆうしゅつりょうが日本一です。この恵まれた環境を生かし、市長さん方もいろいろな取り組みを進めてくださっていると思います。その中で、大切なことは、一度来たお客さんに、また来たいと思ってもらえるかということだと思います。

僕は以前、三重県の伊勢神宮を車で訪れた時、駐車場でとても不愉快な思いをしたことがあります。それは、三重県ナンバーの車が本来とめてはいけない所にとめていたことで、僕たち家族をふくめ県外から訪れた人が車をとめられずに困っていました。だから、別府に来てくれた人にも、このような思いをさせたくはありません。そのためにも、観光客を迎え入れる立場として、僕たち別府市民もマナーが大切だと思います。

そこで質問です。今、別府市として、マナーをよくするために取り組みを行っていますか。

教えてください。

○副議長（有田理紗さん） ONSENツーリズム部長。

○ONSENツーリズム部長（亀井京子君） お答えいたします。

別府市では、お客様に喜んでいただけるように、そしてまた別府に来たいと思っていただけるために、いろいろな研修会や活動を行っております。

例えば、旅館やホテルの従業員を対象にした接客に関する研修会や、別府の観光ガイドに興味のある方を募って行っている「ボランティアガイド養成講座」などでは、観光施策への理解を深めたり、別府の魅力を再認識して知識を深めたりしています。小学生を対象にした「別府っ子観光授業」では、ふるさと別府を好きになってもらうように、またお客様を大切に思ってもらえるような授業をしています。

現在、観光に関係する人や小学生に行っている活動の一つの「ボランティア

ガイド養成講座」では、一般の方の参加も多くなっております。

これからも、市民一人一人がお客様をもてなす気持ちを大切にできるよう、また別府市全体がマナーアップできるよう努力してまいります。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 1番、早川季成議員の質問にお答えいたします。

別府観光の基礎を築いた<sup>あぶらやくまはち</sup>油屋熊八さんは、ご存じですか。「旅人をねんごろにせよ」といって、お客様をもてなすことを最も大切にされた人です。たくさんのお客様に満足していただいて、今の別府市、別府観光があると思っております。私たち別府市民は、この精神をしっかりと引き継いでいかななくてはならないと思っております。

受け継いだものの一つとして、別府市民憲章があるわけです。先ほどから出ております。「美しい町をつくりましょう」、「温泉を大切にしましょう」、そして最後に「旅人をねんごろにせよ」という「お客様をあたたかく迎えましょう」というものです。別府市民の目標として、毎月別府市の市報に<sup>けいさい</sup>掲載して呼びかけも行っていきます。

早川議員のように、マナーを大切にしようという気持ちを持っている市民はたくさんいると私は信じています。そういう意味で早川議員は、ぜひ「地域の<sup>あぶらやくまはち</sup>油屋熊八」になってください。あいさつをする、ゴミを散らさない、またボランティアに参加する。そして、お客様に会ったらあいさつをして笑顔でお迎えをする。「ようこそ別府に来てくれました」という気持ちで接する。これが大切です。笑顔で接する、私は今ビーズバッジをつけています。温泉マークで、笑顔です。笑顔でお客様をあたたかく迎えましょうという気持ちです。このことで、別府はいいまちだな、心の温かいまちだな、また行ってみたいね、こう必ず思ってもらえるだろうと。それが今、別府市が進めている「住んでよし 訪れてよしのONSENツーリズムのまちづくり」だと理解をしていただけたらと思います。

ぜひ<sup>あぶらやくまはち</sup>「油屋熊八」<sup>おう</sup>翁になっていただいて、お客様には「別府に来てよかった」と思ってもらえるように、これからも早川議員がんばってください。別府市全体にそういう思いを広げていくように、一緒にがんばりましょう。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 1 番。

○1 番議員（早川季成君） ありがとうございます。これからも僕たちは、マナーをよくして別府の観光に貢献<sup>こうけん</sup>できるよう努力していきたいと思います。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） 次に、4 番議員、青山小学校の北村俊輔君の一般質問をお願いいたします。

[4 番議員 北村俊輔君、登壇]

○4 番議員（北村俊輔君） 僕は、別府公園の活用について質問をします。

僕たちの青山小学校区には、別府公園があります。日ごろ、多くの人が散歩したり、ジョギングしたり、僕たちも放課後、遊んだりしています。別府公園は別府市民が快適に暮らすために、なくてはならない場所になっていると思います。そこで、青山小学校の児童会では、もっと別府公園を活用できないかと考えてみました。まず一つ目は、足湯をつくることです。足湯をつくれれば観光客がふえると思うし、ふだん別府公園で散歩やジョギングをしている人たちも体を休めることができるからです。二つ目は、防災への活用です。今年は東日本大震災があり、多くの方々が亡くなってしまいました。別府公園は災害時の指定避難場所<sup>ひなん</sup>になっていて、避難した人たちが使える水が地下のタンクにためられています。そこで、避難時<sup>ひなん</sup>に使える食料も保存できる施設をつくれれば、別府市民がもっと安心・安全に暮らせるようになると思います。そこで質問です。僕たちはこのように別府公園の活用を考えましたが、市役所の皆さんは今後の別府公園の活用をどうお考えですか。教えてください。

○副議長（有田理紗さん） 建設部長。

○建設部長（糸永好弘君） お答えいたします。

北村議員ご指摘の足湯設置についてでございますが、大変斬新<sup>ざんしん</sup>なアイデアだと感心しているところでございます。

しかし、温泉の確保、施設管理等の面から考えると設置は大変難しいと考えております。

次に、災害時の食料等の保管施設の設置についてでございますが、別府公園につきましては、別府市地域防災計画により一時避難所<sup>ひなん</sup>に指定されております。

この一時避難所<sup>ひなん</sup>は、災害時の危険を一時的に回避するための避難所<sup>ひなん</sup>でございまして、食料等の保管は、別府公園の横にあるべっぷアリーナを保管場所としております。

また、別府公園には災害緊急時に飲料水や消火用の水を確保するための耐震<sup>たいしん</sup>性貯水槽<sup>せいちよすいそう</sup>も設置されております。貯水容量は100トンで、約1万1千人の3日分を供給できる量となっております。

今後とも、素晴らしいアイデアのご提案をよろしくお願いいたします。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 4番、北村俊輔議員の質問にお答えいたします。

ご質問の別府公園の活用については、別府を思う心が本当に感じとることができました。この思いやりの気持ちを、これからも大事にしてほしいと思います。

現在、別府公園の活用については、年間を通して農林水産祭をはじめ、各保育所や幼稚園の運動会に使ったり、ダンスフェスタがあったり、皆さんに参加いただいた「千灯明<sup>せんとうみょう</sup>」が人気を呼んでおります。ほかのイベント等の検討も行って、観光客が別府に来たいと思えるようなイベントも考えていきたいと思っております。

次に、防災面の食料等の保管施設についてですが、今年3月11日の東日本大震災により、数多くの人々が犠牲となり大きな被害をもたらしました。

このことをしっかり教訓として受けとめて、別府市においても、地震災害時の防災対策ということで、被害を最小限に抑えるために、ソフト面、ハード面について、一生懸命、対策を行っているところでございます。

ちなみに食料保管施設は、現在、市街地にべっぷアリーナをはじめとして、8カ所、山間部にも公民館など中心に、8カ所の計16カ所に設置をいたしております。

今後も別府市民や観光客の皆さんが、安全で住みよい、安心して訪れることができるような、きれいな別府のまちにしていきたいと思っております。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 4番。

○4番議員（北村俊輔君） ありがとうございます。僕たちも別府公園をきれいに使ったりとしていきたいと思いますので、市役所の皆さんも今後の別府公園の活用をよろしくをお願いします。

○副議長（有田理紗さん） 次に、11番議員、春木川小学校の花澤絢介君の一般質問をお願いいたします。

[11番議員 花澤絢介君、登壇]

○11番議員（花澤絢介君） 僕たちの春木川小学校では、1年に1回、児童会と地域の人たちとがいっしょになって、春木川の清掃をしています。

全校のたてわり班で分担して、班ごとに場所を決めてゴミ拾いをしています。この春木川清掃では、毎年、たくさんのゴミが集まります。また、春木川には洗剤の泡のようなものが浮いているところもあります。川の汚れはゴミだけではなく、家庭からの排水にも原因があるのではないかと思います。

春木川だけでなく、別府市にある川をきれいにすることは、きれいな海を守るためにとても大事なことだと思います。

そこで質問です。

別府市では、川や海をきれいにするためにどのような取り組みをしているのでしょうか。また、家庭からの排水を川に流さないためにどのような取り組みをしているのでしょうか。教えてください。

○副議長（有田理紗さん） 生活環境部長。

○生活環境部長（永井正之君） お答えいたします。

花澤議員をはじめ春木川小学校の皆さんや「春木川を守る会」などの地域の方々が、春木川の清掃活動に取り組んでいただいていることに対しまして、この場をおかりして厚く御礼申し上げます。

別府市では豊かな自然や温泉資源を守り、市民の皆さんが自然環境と共生する社会の実現を目指して、さまざまな環境に関する取り組みを総合的、計画的に推進をいたしております。そのもととなる計画が、「第2次別府市環境基本計画」というものでございまして、昨年度、新たに計画をさせていただきました。この計画の中にも、「大気・水質の保全」の環境施策の項目があり、川をきれいにするための取り組みも目指しております。



それには、家庭から出る排水が少なくなるように、汚れが川の中に少しでも入らないための方策として、公共下水道や合併浄化槽<sup>がっぺいじょうかそう</sup>の整備を進めております。この2つの環境施策は10年後の別府市を見据え、成果目標を設けております。この目標を達成できるように現在、取り組んでおります。

今後も「春木川を守る会」をはじめとする地域の方々をモデルとしてボランティアの輪が広がることを期待しております。また、市民の皆さんの環境に対する美化意識も大切になってまいります。市民の皆さんに川の水をきれいにする工夫をもっと知っていただくために、市報などを通じて今後ともお知らせしてまいりたいと考えております。

○副議長（有田理紗さん） 市長。

○市長（浜田 博君） 11番、花澤絢介議員の質問にお答えいたします。

花澤議員をはじめ春木川小学校の皆さんや「春木川を守る会」などの地域の方々が、春木川をきれいにしようとがんばって取り組んでいることに大変うれしく思いますし、感謝を申し上げたいと思います。同時に、次世代に地域の川をきれいな状態で引き継いでいくという美化活動を続けられていることに、本当に頭が下がる思いでございます。

別府市では、市民や事業所の皆さんにごみのポイ捨てや川の汚れを少しでも減らしてほしいという思いで、自主的に取り組んでいただくように呼びかけをしていきたいと思っております。自然環境を守り、別府の豊かな自然<sup>けいしょう</sup>を継承していくためには、別府市はもとより、市民の皆さんや事業所の皆さんのご協力がなくては、なかなかうまくいきません。ぜひお力添え<sup>ちからぞ</sup>をいただき、別府市の市民憲章である「美しい町をつくりましょう」を合言葉に、全市を挙げて取り組んでいきたいと思っております。

花澤議員にも今後も春木川の美化活動に積極的に参加していただきますよう、お願いして答弁いたします。

貴重な質問ありがとうございました。

○副議長（有田理紗さん） 11番。

○11番議員（花澤絢介君） ありがとうございました。これで質問を終わります。

○副議長（有田理紗さん） これをもって一般質問を終結いたします。

休憩いたします。

午前10時50分 休憩

午前11時05分 再開

○議長（大野康晴君） 再開いたします。

日程第5により、提言を行います。提言者は4名です。提言順位により、提言を行います。

○議長（大野康晴君） 最初に、19番議員、鶴見台中学校の増田尚輝君に提言の発表をお願いいたします。

[19番議員 増田尚輝君、登壇]

○19番議員（増田尚輝君） 私の住む別府市は、全国的にも温泉が有名です。しかし、私自身は、温泉を身近に感じたことがありません。これまで別府八湯などの有名な温泉に行ったこともなく、近くの銭湯に家族で行くことしかないので、温泉を案内することもできませんし、「別府は温泉が有名だね」と言われても正直なところピンときません。私は別府市民として、別府の温泉を身近に感じることができるようになりたいと考え、気軽に通える温泉館を造ってほしいと思うようになりました。そこには、温泉の歴史について学べる資料館とともにショッピングモールや家族で遊べる公園、映画館なども併設すれば、別府市民が集える場所となるに違いないと思います。

別府市民が温泉を身近に感じることができれば、より別府を誇れるようになり、他県から来た観光客にも優しく案内できると思います。また、そこで興味をもった温泉があれば、実際に現地に足を運びたいと思うようになると思います。観光がより盛んになるためには、まずは別府市民が別府のよさを実感することが大切です。ぜひ温泉館を中心にした別府市民が集える施設を建設してほしいと願っています。

これで提言を終わります。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 19番、増田尚輝議員のご提言にお答えいたします。

まず私たちが住んでいる別府市は、温泉が日本一です。実感がないというお話を聞いたので、ちょっと詳しくお話しさせていただきます。

何が日本一なのかとよく言われますが、お湯のわき出る量、湧出量ゆうしゅつりょうですね。これが1日に約12万6千キロリットルです。単位でわかりにくいですが、学校に25メートルプールがありますね。これの約200杯が毎日出ているというのが、日本一なのです。すごい量のお湯がわき出ていると。そして、泉源の数、源泉数とも言いますが約2,300あります。ついでにその中から、湯けむりが立ち上っているのが408本あります。湯けむり景観をご存じだと思います。その源泉数も日本一なのです。大分県で、1番、2番をとっています。隣の湯布院が800くらいですから約3倍、そのくらい飛びぬけて日本一であるということは、ぜひご理解ください。

もう一つ日本一があります、泉質。地球上に単純泉、酸性泉とか、11種類の温泉の泉質があります。そのうちの10種類が、この狭い別府の中にあるということです。これは世界一と言われていています。唯一ないのが放射能泉で、これだけは別府市にありません。

このように、湧出量ゆうしゅつりょうと泉源の数と泉質すべてが日本一、私は世界一だと思っておりますが、そろっているというのが、この有数の温泉観光都市であるということを、まず心の中にしっかり確認をしてください。お願いいたします。

私たちにとって、温泉というのは宝です。ご提言の中にあつた温泉を身近に感じたことがない、温泉が有名だねと言われてもピンとこない、そして、温泉について学べる場所がない。この意見については、本当に素直にその思いを受けたいと思います。しかし、温泉が日本一であるということ、別府は国際観光温泉文化都市であるということを誇りに思いながら、温泉について学べる場所「温泉館」を造ってほしいという思いに、私もその思いを持ちながら、別府市の将来的な発展のためには、地域性、歴史性を生かした今までにない、いわゆる温泉の世界、さらには地球科学的な温泉のおもしろさを発見できるような、これは仮称ですが「温泉地球博物館構想」を私自身は考えております。

その「温泉地球博物館」というのは、別府温泉の成り立ち、温泉がどうしてできたのか。鶴見山が千何百年前に爆発ばくはつして、地の底にマグマができて、それが温泉という特有の成分で泉源を保護ほごしているとか。そして、そのもとは雨水がしっかりと地下に浸透して行って、何十年もたって今、毎日入っている皆さ

んの温泉になっている。40年、50年前に降った雨が今、私たちが入っている温泉なんだよということが、ボタンを押せばそういう構図が出てくるような場面もつくりたい。仕組み、それから実際に体験できる場所もぜひ博物館構想の中に加えたいと思っています。

市民の皆さんをはじめ市外の方々にも、温泉それから別府の文化などをインターネットで見られる仕組み、いわゆる「バーチャル博物館」と呼んでいます。そういう構想、そして、その得た知識を実際に自分が体験したいと言ったら、別府にはいっぱいあります。なぜ地獄があるのですか。なぜ坊主地獄はブクブク膨らんでいるのですか。そこに体験してみることができる「フィールド博物館構想」。これらの仕組みを備えた「温泉地球博物館構想」、これを私は別府市の将来発展のためには、ぜひとも実現したいと今、夢でございまして、このことをお話しさせていただきました。

また、市民が集える場所については、中心市街地の活性化に取り組んでおりますが、地域でボランティアの皆さんを含めて、本当にがんばっていただいている別府八湯を生かした取り組みを、二百数十団体の皆さんがもうやっております。そういうなかで、それぞれの温泉の特徴を生かした場所づくりを考えていただいておりますので、このこともしっかりと外に向かって情報を発信していきたいと思っております。

そして、皆さんが将来、別府の温泉を身近に感じることができるようになれば、お客さんもまた別府に行ってみたい、そんなすばらしいボタン一つで温泉の仕組みやいろんな体験ができるのかな、こう思ってもらえると修学旅行とか含めて、多くのお客さんが別府に来てくれるのではないかと、というような夢を持っております。別府を訪れてくれる人がふえてくれば、そういう人に対して、優しく対応していただけるものと確信をいたしております。

増田議員の思いをしっかり受けとめました。市民が別府の良さを実感できるように、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

貴重な提言ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 次に、18番議員、朝日中学校の秦 将也君に提言の発表をお願いいたします。

[18番議員 秦 将也君、登壇]

○18番議員（秦 将也君） 私たちの朝日中学校では、社会科の授業の中で、この子ども市議会に出す提言について話し合いました。その結果1位になった意見が、「温泉の地熱発電への利用」についてです。現在、別府は世界一の湧出量ゆうしゅつりょうを誇る温泉が有名ですが、1日の利用量はその一部で、かなりの量が未使用のまま海に流出していることを学習しました。そこで、温泉を地熱発電に利用し、そこで得た電力を有効活用することはできないでしょうか。例えば地熱発電で得た電力が、市内の電気代の削減につながったり、他地域へ売電できたりすれば、別府市の収入源としても計算できると思います。現在旅館やホテルの井戸から引く温泉水の蒸気を利用して、タービンを回す仕組みの小型地熱発電機が開発されているそうです。3月に起こった震災以降、エネルギー供給の在り方が問われてきている今こそ、別府でしかできないこの取り組みを推進していくことを提言します。

これで提言を終わります。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 18番、秦将也議員のご提言にお答えいたします。

ご提言いただきました「温泉の地熱発電への利用」は、朝日中学校での社会科の授業において、別府市への提言の1位になったということをお聞きいたしました。

そのなかで、地熱発電で生み出された電力の余った分を売って別府市の収入源にしたかどうかという、ご提言をいただきました。このことを考えると、別府市の財政状況まで心配していただいて、本当に胸の熱くなる思いをいたしました。

今、ご存じのように日本の経済はとても厳しい状況なので、そのなかで財政も厳しいです。今までと違う工夫が必要だと私も考えております。秦議員のご提言のとおり、県内でもバイナリー発電など温泉熱を利用した発電が実用化しているところもあります。そして、実際に導入に向け取り組んでいる施設もあるわけですが、バイナリー発電とは、アンモニアやペンタン・フロンなどの沸点の低いものを利用して、温泉の排熱などの低い温度でも発電ができるという

ことを実証していただきました。

そういうことから、別府市は日本一の温泉であるということですから、別府だからこそできる取り組みを調査研究していかななくてはいけないと思いますし、また、旅館やホテルなどの民間企業と一緒にあって、積極的に推進していきたいと思っているところでございます。

土井議員の答弁でも言ったと思いますが、温泉所在都市の私は会長として、温泉熱を利用した発電、温泉所在都市ほどこのことを、産官学で研究して温泉地こそ発電をやろうじゃないかと、原発だけに頼らない、自然エネルギー発電をしっかりと考えていこうということをお願いしました。そのことで、今いろんな市で研究をしておりますので、温泉熱を利用した発電への推進ということが近々出てくるのかなと、各地の市長さん方としっかり話し合いをしているところでございますので、よろしくお願いを申し上げます。

貴重な提言ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 次に、17番議員、中部中学校の鳥居瞳綺さんに提言の発表をお願いいたします。

[17番議員 鳥居瞳綺さん、登壇]

○17番議員（鳥居瞳綺さん） 皆さんは、ボランティア活動をどのように思っていますか。

ボランティアは、必ず全員がしなければいけない活動ではないので、これまでボランティアを経験したことがない人もいるかもしれません。しかし、日常生活の中で、道端に落ちているゴミを拾うことも、ボランティアの一つだと思います。ゴミを拾えば、街がきれいになります。たくさんいる別府市民の中の一部の人だけでなく、より多くの方がボランティア活動をすることにより、街が住みやすく、さまざまな年代の人が今よりもっと暮らしやすくなると思います。

そこで私が今考えていることは地区別でボランティア活動をしてはどうかということです。私の学校では、毎年、大アルミ缶回収という活動を行っています。自分が住んでいる地区ごとで、近所の人に呼びかけをし、アルミ缶を集め、生徒会活動の活動費にしています。そこでは近所の人たちとの交流を深めるこ

とができるし、回収と一緒に清掃も行っています。活動中に近所の人から「ありがとう」「がんばってるね」と声をかけられることもありました。自分たちのために行っていることが、多くの人の役に立っているんだと感じました。

私はボランティア活動を一部の人だけが参加すればいいと思わずに、自分から進んで参加できるような活動にすることが大切だと思います。

これで提言を終わります。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 17番、鳥居瞳綺議員のご提言にお答えいたします。

別府市では、まちの美化を目指し、清掃活動に取り組んでおりまして、毎年6月に「全市一斉清掃」を、7月には「海岸海浜清掃」を市民の皆さんのボランティアの活動を含めて実施をいたしております。6月の「全市一斉清掃」には、約8千5百名が参加いただきました。7月の「海岸海浜清掃」には、約2千3百名の市民の皆さん方が参加していただきました。また、自治会や市民団体の皆さんもボランティア活動として地域の清掃にしっかり取り組んでいただいて、ご協力をいただいております。鳥居議員の提言にもあるように、清掃のボランティア活動の輪が市民の皆さんにどんどん広がり、一人でも多くの皆さんが参加していただければ、きれいで住みよいまちになり、本当に大変素晴らしいご提言だと思っております。今後とも、鳥居議員におかれましては、今もやっけていただいている地域とのふれあい、アルミ缶の回収、ボランティア活動の輪にもしっかり参加していただいております。別府市を思う気持ちをぜひ大切にしていきたいと思っております。

貴重な提言ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 次に、16番議員、青山中学校の山村莉歩さんに提言の発表をお願いいたします。

[16番議員 山村莉歩さん、登壇]

○16番議員（山村莉歩さん） 別府には豊かな自然がたくさんあります。例えば、山や海、温泉などです。志高湖、神楽女湖、由布川峡谷、十文字原高原、内成の棚田、鶴見岳。数えていくときりがありません。私は今年の9月に少年自然の家おじかに行った時、活動で由布川峡谷に行きましたが、峡谷の美しさにとて

も感動しました。私の家のある地域は住宅地で、自然にふれる機会がありません。別府にもこのような所があるとは知りませんでした。この自然は残していかなければ、と思いました。そのような別府ですが、近年は国道沿いに並ぶ多くのスーパーやデパート。そして、大きな港の開設により、観光都市として、ますます発展しようとしています。別府市が発展し、多くの観光客が見えるのはうれしいのですが、そのことによって、豊かな自然が、ごみの投げ捨てや、駐車場の完備のために壊されていくことがあるのでは、と心配です。そのようなことのないように発展してほしいと思っています。

これで提言を終わります。

○議長（大野康晴君） 市長。

○市長（浜田 博君） 16番、山村莉歩議員のご提言にお答えいたします。

山村議員は由布川峡谷の自然に触れられたということで、貴重な体験をされたことと思っております。由布川峡谷は60～70万年前の火砕流<sup>かさいりゅう</sup>で形成された凝灰岩<sup>ぎょうかいがん</sup>でできており、雨や川などに侵食されながら長い歳月を経てできたものです。その特異な地形は、別府の市街地から車で20分ほどの近い距離にあるわけですから、山村議員の言われるように、そのような自然に触れ合える場所をもっと発掘して、自然と触れ合える機会をもっとふやしたいと別府市では考えております。

また、山村議員が言われるように、別府へ多くの観光客が来ていただくことは、別府の発展に欠かせないものです。別府の観光をさらに盛んにするために土地を開発することもあります。自然を保護することのバランスを取ることが大切ではないかと思えます。隣の湯布院をはじめ、各温泉地でも自然と共生している町は、より多くの観光客が集まっております。そういう意味から、これからの時代は、今ある自然をしっかりと残していく、乱開発をしない、自然をしっかりと残しながら、魅力ある温泉地づくりを進めるということが発展していく基本になるのではないかと思っております。別府市としても、今後もその観点から観光をさらに盛んにする取り組みを進めながら、自然保護にしっかりと努めていきたいと思っております。

山村議員におかれましては、別府の豊かな自然にもっと多く触れる機会をふ



やしていただきまして、今後も人を思う気持ちと同時に、自然を思う気持ちをぜひ大切にしてください。お願いいたします。

貴重な提言ありがとうございました。

○議長（大野康晴君） 以上で、提言を終結いたします。

次に、日程第6「子ども議員提出議案第1号 子ども宣言について」を議題といたします。

提出者の21番議員、北部中学校の櫻木美由紀さんから、提案理由の説明をお願いいたします。

[21番議員 櫻木美由紀さん、登壇]

○21番議員（櫻木美由紀さん） 子ども議員提出議案第1号は、お手元に配付しております宣言書を読み上げて、提案理由の説明にかえさせていただきます。

「繋<sup>つな</sup>がり<sup>な</sup>を大切に<sup>な</sup>する町 別府」

子ども宣言

私たちは、今日、ふるさと「別府」の未来について考えました。今年は、東日本大震災もおこり、これまで以上に人と人との結びつき「絆<sup>きずな</sup>」の大切さを実感させられた1年でした。

多くの人々の繋<sup>つな</sup>がり、支え合いの中で、私たちのふるさと「別府」が成り立っていると思います。今日この場に集まった仲間との繋<sup>つな</sup>がり<sup>な</sup>を深め、これまで以上に、みんなに愛される町づくりにかかわっていきたいと思うようになりました。

別府は全国に誇れる温泉や地獄、伝統工芸竹細工という素晴らしい観光や伝統がある。このような自慢できる別府特有の財産を私たちに限らず、さまざまな人たちに知ってもらい、観光客あふれる「別府」をつくっていかうと思えます。

そのため、別府の発展に協力できるように、私たちにもできる、次の4点を約束し、実行していくことを誓います。

1 この度の東日本大震災に遭われた方々のひたむきさに生きる姿、また、

支援する方々のあたたかい心に学び、思いやりと感謝の気持ちをもって人としてのよりよい生き方を求めていきます。

2 別府の魅力についてしっかり学び、その魅力を日本国内だけでなく、世界に向けて発信し、別府を訪れる方々を輝く笑顔と明るいあいさつでお迎えします。

3 「美しいふるさと別府」の町づくりのために、ゴミの分別やリサイクルなど、身近にできることから積極的に取り組んでいきます。

4 年齢、性別、人種に関係なく、全ての命を尊重し、互いに助け合いながらあたたかい毎日をつくっていきます。

以上のことを宣言いたします。

平成23年12月27日

べっぷ子ども市議会

なにとぞ、子ども議員、皆様のご賛同をよろしくお願い申し上げます。

○議長（大野康晴君） 以上で、提案理由の説明は終わりました。

これより、採決を行います。

お諮り<sup>はか</sup>いたします。

ただいま提案されました「子ども議員提出議案第1号」については、原案のとおり決することに、賛成の皆様のご起立をお願いいたします。

[賛成者起立]

○議長（大野康晴君） 起立全員です。

よって、「子ども議員提出議案第1号 子ども宣言について」は、全員一致をもって原案のとおり可決されました。

ご着席ください。

以上で、本日の議事はすべて終了いたしました。

お諮り<sup>はか</sup>いたします。

第9回「べっぷ子ども市議会」を閉会いたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

[「異議なし」の声あり]

○議長（大野康晴君） ご異議なしと認めます。

よって以上で、第9回「べっぷ子ども市議会」を閉会いたします  
お疲れさまでした。

午前11時30分 閉会

## [閉 会 式]

○市議会事務局（松川昌代さん） 皆さまお疲れさまでした。

それでは、議長、副議長は議員席へお戻りください。

ただいまから、第9回「べっぷ子ども市議会」の閉会式を行います。

浜田博市長より、ごあいさつを申し上げます。

○別府市長（浜田 博君） 皆さん、きょうは本当にお疲れさまでございました。

小学生と中学生による「べっぷ子ども市議会」、私が平成15年に市長に就任して、その年の12月に第1回の「子ども市議会」の開催をさせていただきました。それから今年で9回目の「子ども市議会」でございます。すっかり定着して恒例となつてまいりました。

今年も皆さんの観察力の鋭い質問、ご提言をいっぱいいただきました。そして、最後に、子ども議員提出議案第1号ということで、「繋がり<sup>つな</sup>を大切にする町 別府」という子ども宣言をいただきました。大変感動いたしました。

一般質問では、ご案内のとおり福祉、自然、環境、観光、そして教育、すべての行政分野にわたって質問をいただきました。そのなかでも、東日本大震災にあわれた方々のことを思いやる気持ち、別府発展の思い、さらには高齢者、障がい者の皆さんのこと、しっかり心を寄せていただきました。心温まる貴重な質問ばかりだったと、私は思っております。

そして、皆さんからいただいた提言も本当に素晴らしいものばかりでございます。皆さんが住むこの別府をぜひよくしたいという気持ち、安心して過ごせるまちにしたいという気持ち、別府への強い強い思いをしっかり受けとめました。私たちはみんなで話し合いながら、このことが実現できるようにしっかりがんばっていきたいと思っております。

皆さんも貴重な体験をしました。今、年齢が12歳から15歳かな。あと10年から13年したら、被選挙権25歳になりますよ。別府市議会議員に立候補ができます。10年前にあの質問したことは、市長どうなっているのか。議員になって質問してください。私が提言した内容については、どのように進んでいるのですか。このことを質問していただくことを楽しみにしています。そのときには、私なんか

はもう誰もいないと思いますけどね。行政は継続ですから皆さん方から、提言いただいたり、質問いただいたことは、しっかりと受けとめて、行政一丸<sup>いちがん</sup>となって実現に向けて、がんばっていく所存でございます。本当にありがとうございました。

今年もわずかで暮れようとしています。この1年を振り返ると、つらかったこと、また、たのしかったこともいっぱいあったと思いますが、その経験、そして何よりもこの「子ども市議会」に出席をした貴重な体験、これは皆さんしかできなかったわけですからね。選ばれた皆さんが、こうして質問や提言をしたこの経験を、これからの勉学にしっかり生かしてください。そして、一回りも二回りも大きく巣立ってほしいという思いでいっぱいでございます。皆さんの成長を心から期待をいたしたいと思います。

終わりにになりましたが、第9回になりましたこの「べっぷ子ども市議会」の開催に大変なご尽力をいただきました別府市子ども会育成会連合会、別府市PTA連合会の皆さま方、さらには保護者の皆さん、そしてご指導いただいた先生方、また、別府市議会子ども会を支える議員連盟の皆さま方、本当に心から感謝を申し上げまして、お礼のあいさついたします。

きょうは皆さん本当にありがとうございました。

○市議会事務局（松川昌代さん） 続きまして、寺岡悌二教育長より、本日ががんばっていただきました子ども議員の皆さん方に、記念品を贈呈いたします。

代表 浜脇中学校2年 安東杏佳さん。

[20番議員 安東杏佳さん、議場中央フロアに立つ]

○教育長（寺岡悌二君） 本当によくがんばりました。この経験を踏<sup>ふ</sup>まえ、未来をつくる力につながりますことを願っております。第9回べっぷ子ども市議会を記念し、記念品を贈呈します。

[教育長より記念品贈呈]（拍手）

○市議会事務局（松川昌代さん） ここで、子ども議員を代表して、安東杏佳さんからお礼の言葉があります。

子ども議員、執行部並びに主催者の方は、ご起立願います。

[全 員 起 立]

○子ども議員代表（安東杏佳さん） 私は今回「子ども市議会」に参加して、自分の住む

別府市への関心がより一層深くなりました。他の子ども議員さんの質問・提言や、それに対する市長さんや市の職員の皆さんの答弁を聴かせていただいたことで、今まで気がつかなかった別府市のことや、他の人が思う疑問や考えを知ることができたので良かったです。

別府市をさらに良い街にするために、ぜひこれからも私たち小中学生の意見にも耳をかたむけていただきたいと思います。私も今回学んだことを学校の友達に広めていきたいと思っています。「子ども市議会」に参加できたことは、私にとってとても良い経験となりました。ありがとうございました。

(拍手)

○市議会事務局（松川昌代さん） それでは、皆さまご着席ください。

[全 員 着 席]

○市議会事務局（松川昌代さん） 以上をもちまして、第9回「べっぷ子ども市議会」閉会式を終了いたします。

# 「繋つながりを大切にす町 別府」 子ども宣言

私たちは、今日、ふるさと「別府」の未来について考えました。今年は、東日本大震災もおこり、これまで以上に人と人との結びつき「絆」の大切さを実感させられた1年でした。

多くの人々の繋がり、支え合いの中で、私たちのふるさと「別府」が成り立っていると思います。今日この場に集まった仲間との繋がりを深め、これまで以上に、みんなに愛される町づくりにかかわっていきたく思うようになりました。

別府は全国に誇れる温泉や地獄、伝統工芸竹細工という素晴らしい観光や伝統がある。このような自慢できる別府特有の財産を私たちに限らず、さまざまな人たちに知ってもらい、観光客あふれる「別府」をつくっていきましょうと思います。

そのため、別府の発展に協力できるように、私たちにもできる、次の4点を約束し、実行していくことを誓います。

- 1 この度の東日本大震災に遭われた方々のひたむきさに生きる姿、また、支援する方々のあたたかい心に学び、思いやりと感謝の気持ちをもって人としてのよりよい生き方を求めていきます。
- 2 別府の魅力についてしっかり学び、その魅力を日本国内だけでなく、世界に向けて発信し、別府を訪れる方々を輝く笑顔と明るいあいさつでお迎えします。
- 3 「美しいふるさと別府」の町づくりのために、ゴミの分別やリサイクルなど、身近にできることから積極的に取り組んでいきます。
- 4 年齢、性別、人種に関係なく、全ての命を尊重し、互いに助け合いながらあたたかい毎日をつくっていきます。

以上のことを宣言いたします。

平成23年12月27日

べっぴん子ども市議会

この会議録の内容が間違いないことを確認し  
署名します。

平成23年12月27日

べっぷ子ども市議会

議 長

大野 康晴

副議長

有田 理紗

会議録署名議員

土井 和也

会議録署名議員

堀口 未来





別府市議会子ども会を  
支える議員連盟 会長  
首藤 正

子ども議員の皆さんの別府を思い、発想に富んだ純真な質問や提言に、  
昨年にも増して非常に感心いたしました。

これからも、皆さんが、今回子ども市議会での経験を大切にして、夢  
のある“ふるさとづくり”に関わっていただければ、きっと素晴らしい別  
府になることと思います。

私ども（別府市議会子ども会を支える議員連盟）も、別府の子どもたち  
の健全な成長を見守り続け、暮らしやすく、夢のあるまちづくりに一層励  
んでいきます。

ご家族、地域の皆さん、先生方、PTAの皆さん、そして市子連の皆さん  
には、別府の子どもたちへの、なお一層の温かいご指導とご支援をお願い  
いたします。



別府市教育長  
寺岡 悌二

第9回「べっぷ子ども市議会」では、子ども議員のみなさんから、「観光  
客を迎え入れるうえでのマナー向上の取組」「別府公園の活用や美しい自然  
環境を守る取組」など、それぞれが別府市で暮らすひとりとしての建設的  
な質問や提言が出され、感心させられました。さらには、「エネルギー問題  
やボランティア活動」など、東日本大震災に心を痛め、自分たちにもでき  
ることはないかを考え、行動したいという強い思いも伝わり、将来を担う  
子どもたちとして、大変頼もしく思えました。

教育委員会といたしましても、子どもたちの学校や地域、ふるさと別府  
への思いや純粋な願いが生かされ、より充実した教育環境になるよう、今  
後も努力してまいります。



別府市子ども会  
育成会連合会 会長  
池辺 栄浩

第9回子ども市議会は、今年も大成功で終わることができました。純粋  
でしかも真剣な質問と提言に感心しました。

人は色々な経験を積重ねて強くなります。今回のこの経験が自信となり、  
次のステージで生かされることと思います。

さて、当市子連は昨年11月に14カ国の留学生29名（ボランティア）  
の参加を頂き総勢約150名による、「おじか」での1泊2日の研修を行いま  
した。＜感謝と絆＞をテーマに子ども達の最高の笑顔でした。これから  
も、今回の様な学校外の社会体験の場の提供と環境の整備を行います。

最後に、開催にあたり関係各位のご尽力に感謝申し上げ挨拶とさせて頂  
きます。



別府市PTA連合会  
会長  
後藤 智

子ども市議会開催にあたり、ご尽力頂いた方々に感謝申し上げます。

べっぷ子ども市議会議員として議会に参加させて頂きました生徒・児童  
だけでなく、質問・提言は全学年またはクラスで話し合いを重ねて議会に  
臨んでいます。未来を担う多くの子どもたちが、自分たちの住む別府を再  
度見直す事の出来るとてもよい機会にもなっているとも思います。そのう  
ちのいくつかの質問・提言が現実に実行されていることもこの議会に取り  
組む子どもたちには大きな励みになっていると思います。保護者を代表い  
たしまして御礼申し上げます。

私たちPTAは子どもたちの健全育成のために活動していく所存でござ  
います。別府の未来を担う子どもたちのため、今後ともみなさまご支援ご  
協力をよろしくお願いいたします。